

II. 講演会報告『栃木県における産学官の連携状況と技術士会への期待』

講師：小林 綱芳 主幹

＜所属＞ 栃木県産業労働観光部工業振興課(産学官連携推進)

1. はじめに

県支部全体会合の講演会は、小林 綱芳主幹(栃木県産業労働観光部工業振興課)をお招きして産学官連携についてご講演いただいた(図1)。小林氏は真岡工業高校など教職の経歴を持っておられる。栃木県における産学官の連携状況を説明された上で、産学官連携の成否は人材育成がポイントであることを強調された。以下に小林 綱芳主幹の講演概要を記す。

2. 講演の概要

1) 産官学連携

産官学とは企業(産)と大学、高専など高等教育機関(学)と公設試験研究機関・行政(官)とが連携し、新製品、新技術開発や新事業創出を図る取り組みである。最近ではそれを事業化するため銀行など金融機関(金)を含めた連携になりつつある(図2)。



図1 小林主幹の講演

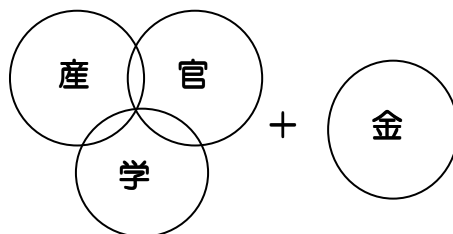


図2 産・学・官+金の連携

講演は、国、県、地域の産学官連携施策の経緯・現状について詳細に説明された。

2) 国の産学官連携施策

国の施策は1996年に第1期科学技術基本5ヶ年計画が策定され大学等の研究成果の産業界への移転が促進された。現在、第4期科学技術基本5ヶ年計画

(2011~2015)の中間点にある。現計画5本の柱の一つが「基礎研究および人材育成の強化」で「科学技術を担う人材の育成」を重点としている。

技術者の養成および能力開発の＜推進方策＞として次の文言が示されている。・・・国は、技術士など、技術資格制度の普及、拡大と活用促進を図るとともに、制度のありかたについても、時代の要請に合わせて見直しを行う。また産業界は、技術士を積極的に評価し、その活躍を推進していくことが期待される。・・・

3) 県・地域の産学官連携施策

県・地域の産学官連携施策は、2003年に県産業技術センターが開所し、2002年以降、大田原市産学官連携推進委員会、鹿沼ものづくり研究会、おやま産学官ネットワーク、蔵の街トライアングルネットワーク、うつのみや産学官連携推進ネットワーク、県北東部産業交流会、あしかが産学官連携推進センターなど七地域の産学官連携組織が活動している。「かんぴょう丸」など新商品創出の成果が得られている。

2006年以降、県の競争力を強化する新とちぎ産業プラン重点プロジェクトに取り組んでいる。

①重点5分野(自動車、航空、医療、光、環境)振興プロジェクト

②“フードバレーとちぎ”推進プロジェクト

③小規模事業者支援プロジェクト

④海外販路開拓支援プロジェクト

栃木県技術士会には②、③、特に④では中国浙江省との交流などで協力いただいている。

⑤インハウンド推進プロジェクト

⑥雇用対策推進プロジェクト

また、宇大の須藤先生を中心に企業講師による「ものづくり技術強化企業戦略講座」を開催している。

4) さいごに

小林講師は人材育成の大切さを強調して次の言葉で講演を締めくくられた。

「産業経済、社会生活の科学技術に関する21の技術分野の高度な知識と応用能力を持つ技術士に、先進的な活動を期待します。」(文責：鈴木 友幸)